

地域における退職シニアの ボランティア活動の要因

— 中国・北京市の社区サービスを事例として —

LIU Xinyue

本研究では、中国における退職シニアボランティア活動の参加に関連する要因を検討することにある。日本の高齢者ボランティア活動の経験を参考にし、現在の北京市のボランティア活動の実態を明らかにする。主に退職シニアがボランティア活動に参加する要因を調査し、特にライフコースの視点から、ボランティア活動に影響を与えている要素を明らかにしたい。

中国は発展途上国型の経済と先進国型の人口構造が並存しているため、高齢者が増加しているのに比べて経済発展が追いつかない現状の中で、いわゆる「貧困な高齢化」と呼ばれる局面にある。中国政府もこの問題を認識し、都市高齢者のボランティア活動を促進する政策を打ち出しているが、その実態は明らかにされていない。先行研究では、中国の高齢化社会の事態を概観し、本研究が依拠する「ライフコース」の社会学的視点を簡潔に述べ、さらに退職シニアのボランティア研究（「アクティブ・エイジング」の考え方、日本の退職シニア研究、中国のボランティア活動に参加する要因、ボランティアの定義）を検討する。

先行研究のレビューを踏まえた上で、北京市の社区でボランティアとして社会活動に参加している退職シニアを研究対象に探索的研究を行った。社会活動に積極的に参加している退職シニアの人生の流れに基づいて、自身の人生に起こった様々な出来事や自身の人生の経験、参加する契機、困っていること、家族の支持、アイデンティティの獲得、社区への貢献、問題点、希望、退職後のボランティア活動状況、社会環境などについて、事例分析を行った。主に、ライフストーリーの聞き取りを中心に、中国の歴史年表に基づいて資料を収集し、分析を行う。今回の調査では、北京市の A 社区と B 社区に行き、50 代(4 人)、60 代(6 人)、70 代(2 人)の合計 12 人の調査対象を選定し、北京市のボランティア活動の実態を調査し、退職シニアの人々が

ボランティア活動に参加する促進要因を明らかにした。

調査の結果によって、以下のことがわかった。まず、年齢によって時代の異なる影響がある。50 代の退職シニアのボランティアは、1999 年の国有企業戦略改革の影響を受けたため、早期に退職したが、ボランティアとして再社会化したいと考え、社区サービスをしている。60 代の退職シニアは、1963 年 3 月 5 日に始まった雷鋒を見習おうというブームの影響が最も大きかった。70 代の退職シニアのボランティアは、50 代と 60 代と違い、主に 1953 年の三大改造、1958 年の大躍進、1960 年からの三年経済困難、1966 年 10 年間の文化大革命などの政策の影響を受けていた。次に、年齢に関わらず各世代に共通している特徴がみられた。第一に、社会に貢献したいと考えている点である。第二に、軍隊の生涯、共産党としてボランティア活動をしている点である。第三に、再社会化と、友人と交流したいという希望がある点である。第四に、社区の魅力(リーダー、様々な社区活動)がシニアのボランティア活動の 1 つの誘因であることが挙げられる。また、ライフコースの視点からの知見が得られた。退職後のボランティア活動に関する時代的影響は、子供時代の苦しい経験と比べ現在の生活は幸福であるため、ボランティア活動に参加したいという意欲が増したことが明らかとなった。特に、ライフコースにおける「ライフイベント」と「転機」とボランティア活動については、1999 年の国有企業戦略改革と国家による大軍縮政策に影響を受け、仕事を止められ人生目標を突然剥奪されてしまったため、退職してからボランティア活動をしているという背景があった。さらに、多くのボランティアにとって、社区活動に参加する促進要因として、家族と友人の影響が最も重要だというコンボイ(重要な他者)が挙げられる。退職シニアボランティアは退職してからボランティア活動を行い、自身の力と人生経験を通して、他人を助けられ、自身は役に立つと考え、役割が変化している傾向がみられた。

以上の事例調査から得られた知見をもとに、中国北京市のシニア期のボランティア活動の要因として 1) 主観的要因、2) 客観的要因の 2 つの軸から、考察を行った。まず、生きがいを感じるという理由は、退職シニアボランティアはボランティア活動によってバランスを取り、平和の心を得られるという点を挙げることができる。次に、ボランティア活動によって豊かなライフスタイルを獲得するため、「自己実現」を行うことができる。さらに、退職シニア達は社区活動に参加することによって、社会関係を創出することができる。最後に、社会責任を担うことによって生じる利他主義の精神は退職シニアボランティアが社区活動に参加する促進要因の重要な要素であった。また、退職後のボランティア活動に及ぼす客観的要因の第一は「時間」である。時間は退職シニアボランティアが社区活動に参加する保障条件である。客観的要因の2つ目は、「家庭の支持」である。家族の支持が得られない場合、退職シニアボランティアは無理に社区活動に参加することとなり、長期的な活動が維持できない。3つ目の要因は時代的、歴史的な影響である。60 代は社会にと

って意義があることを推奨する教育を受けたため、ずっとボランティア活動をしたいと思っている。これに対して、最近の若者はボランティア活動に参加することが少ないと言える。

本研究では、退職シニアのボランティア活動を促進する要因を考察することで、退職シニアに方向を示し、ライフストーリーによる対象者の特徴を検討し、さらに時代的な影響がみられたことから、退職シニアのボランティア活動の要因を探る上でライフコースの視点の有効性を確認することができた。また、中国都市部における退職シニアのボランティア促進の課題を明らかにした。退職シニアのボランティア促進の問題点として、まず、ボランティアは他者の理解が得られないということである。他者はボランティアの無償制度と目的を疑っている。次に、ボランティアの育成制度が足りなく、管理制度が不完全である。現在のボランティア育成のレベルが低く、専門サービスを提供することができないという状況にある。さらに、ボランティアは社区服務の内容が単一である。ボランティア活動はパトロールや安全検査、芸能表演をしているが、ボランティア達の長所を完全に発揮しているとは言い難い。特に、若者は退職シニアよりボランティアを行う意識が薄い。現在の国家による宣伝が不足していることが原因の一つであることなどが明らかとなった。

本研究をさらに進めるにあたってはいくつかの課題が残されている。北京では概ね高齢者の生活水準は一定である。農村部との格差が大きいことから、得られた知見は、中国都市部の高齢者のボランティア活動の要因分析の結果であり、中国全体に一般化することは難しい。北京市以外の地域を対象としたアンケート調査を実施することにより、他の大都市圏の退職シニアのボランティアの実態を明らかにし、包括的な政策モデルを構築することが今後の課題である。